テ BERG 等ト全ク同說ヲ採用シ幼稚ナ根ノ發育過程ヲ順次詳細ニ圖說シテイナガラ何等兩者ニ就テノ圖示モ記載モ行ツテイナイ。遲ク KOCH ハ KARSTEN 說ノ Aussenrinde ニ充テ特別ナ構造ヲ具ヘル旨ヲ示シ，且圖ヲ伴フガ Behälter ニ就テハ Rad. Levistici ノミ Gang ト記載スル。然ルニ古クハ MEYER 比較的最近デハ KRAEMER, BENECKE 等ハ之ノ組織ヲ厚角性ヲ呈スル Phelloderm ト見ナシ，FLÜCK 等ノ觀察モ之ト一致シテイル。唯 Flück 等ハ Rad. Augelicae ノ際之ヲ Auisenrinde (KARSTEN說) ニ一括シタガ更ニ之ヲ第一期皮部ト解釋シタ事ハ甚シイ誤謬デアル。然シ之等ノ學者カラハ之ノ組織ヲ既ニ特別ナ構造形式ヲ具ヘル者トシテ取扱ハレテイル。然シ Behälter ニ就テハ僅カニ FLÜCK 等ノ注目ハアルガ他ノ 4 者ハ全クソノ存在ヲ無視シタ。更ニ KOCH-GILG, GILG-BRANDT-SCHÜRHOFF 等近世ノ生藥學者ガ之等ノ要素ニ對シテ何等ノ顧慮モ與ヘテ居ナイ。

斯クノ如キ著名ナ生藥ニ對スル上記ノ學者ノ觀察モ恐ラクハ亦訂正ノ必要アリト考ヘラレルガソレニシテモ之等ノ生藥學的研究ニ際シテソレ以前ニ一般植物ニ就テ既ニ行ハレテイタ TRÉCUL ヤ van TIEGHEM ノ發表ヲ全ク考慮ノ外ニオイタカノ如キ觀ガアルノハ甚ダ遺憾ナ事實デアル。

略字解 C；新生組織 Dl；透過細胞 End；內上皮 Ep：上皮
Gf；脈管 Gt；脈管部 H；根毛 K：コルク層，コルク細胞
Kol；厚角性組織 Pe: Perikambium Pms；初生髓線 Pr；第一期皮部
Prp；初生篩管部 Prx；初生木部 (Protoxylem) S；篩管
Scb；分泌物貯蓄器 (Sekretbehälter) Sms；後生髓線 St；篩管部

○抹香ノ自給品2種 (小形利吉)

當節ハ線香モ自由ニ入手出來ナイ時代デアルガ，イツノ昔カラカ，我ガ山形縣ニハ抹香自給ノ部落ガ各處ニ散在シテキルノデ次ニソノ主ナルモノ 2種ヲ紹介スル。

(1) ぬるでノ葉ヲ乾燥粉末ニシテ用ヒルノガ其ノ一デ，之ハ既ニフロラ山形 No. 6 P. 33 (昭和14年) ニ紹介シタ如ク，飯豐山麓ノ南置賜郡玉庭村，中津川村，西置賜郡小國町等ノ諸部落デ使用シテキル。是等ノ地方デハぬるでヲ方言デかずのきト稱シ，盆ノ 13 日ニオ墓參リヲスル時ハ必ズ之ヲ用ヒル風習ニナツテキル。

(2) かつらノ葉ヲ乾燥粉末ニシテ抹香代リニスルノハ，縣北ノ最上郡金山町及ビ位村，安樂城村等ノ諸部落デ，之ハ盂蘭盆ノ時ニ限ラズ，常時線香ヤ抹香ノ代リニ用ヒル。

前者ハ格別ヨイ香リモナイガ，後者ハ可ナリ香リモアリ抹香ラシイ感ジガスル。結城嘉美氏ノ談ニ據ルト，西村山郡慈恩寺ノ部落ニモかつらヲ用ヒル風習ガアルトイフ是等ハ何レモ 7〜8 月ノ頃 1m 前後ニ枝ヲ切ツテ，1日位天日ニ乾カシ，後ハ軒下ナドニ吊シテ蔭干トシ，乾燥シタモノハ手デ充分ニヨク揉ミ，粉末ヲ篩デ通シテ使用スルノミデ別ニ製作技術等ハ用ヒテナイ。(昭和 19. 9. 27)